



駒ヶ根高原

駒ヶ根市は、長野県南部の伊那谷のほぼ中央に位置し、東に南アルプス（赤石山脈）、西に中央アルプス（木曾山脈）の三千メートル級の山々を、市内から望むことができます。「駒ヶ根」という名前は、駒ヶ岳の麓のまちという意味で、昭和二十九年の市政施行時に命名されました。

◆駒ヶ根高原

駒ヶ根高原は、駒ヶ根市でも最も人気の高い観光スポットとして親しまれています。

ます。中央自動車道・駒ヶ根ICから車で約五分とアクセスが抜群に良く、中央アルプスの名所「千畳敷カール」まで、ロープウェイで気軽に行くことができます。駒ヶ池のほりから眺める四季折々の風景は、写真愛好家の注目の的になっており、なかでも例年十月中旬から十一月上旬ごろ、中央アルプス頂上から山麓にかけて見られる紅葉は息をのむ美しさです。温泉郷やペンション、美術館、地ビールレストランなど観光施設も充実しており、ゆつたりのんびり過ごすには最適な観光地です。

◆中央アルプス千畳敷カール

日本百名山にも名を連ねる木曾駒ヶ岳（二、九五六メートル）を最高峰とする木曾山脈、通称中央アルプスは、飛騨山脈（北アルプス）、赤石山脈（南アルプス）とともに、日本アルプスと呼ばれています。中央アルプスは南北に長いものの、東西の幅は約二〇キロメートル程度といわれています。

このため標高約六〇〇メートルの登山口から一気に二、〇〇〇メートルほど高度を上げる急峻な登山道が多く、沢や滝が点在するのが大きな特徴です。しかし稜線に出ればおだやかな地形になり、こうした変化が人気の理由となっています。

千畳敷カールは、今から約二万年前に、氷河のゆったりとした流れにより、地表面が削り取られ、すり鉢状になった



一面にシナノキンバイが群生

地形となり、その規模の大きさから「千畳敷カール」と呼ばれています。春の千畳敷カールは、スキー客と夏を待ちきれない観光客、夏は、可憐な高山植物が咲き競い、秋は、山肌一面が黄金色に輝き、冬は、紺碧の空と純白の景色が楽しめます。

◆光前寺

十余棟の堂塔を備え、霊犬・早太郎伝説が伝わる名刹で、貞観二（八六〇）年に本聖上人が開基した信州屈指の大寺



光前寺

で、南信州随一の祈願霊場として広く信仰を集めています。境内の庭園は国の名勝に指定され築山泉水庭で、一説には極楽浄土の庭園ともいわれ、四月中下旬に見ごろを迎えるしだれ桜も有名です。また、樹齢数百年の杉の巨木が立ち並ぶ参道の脇には光苔が自生し、幻想的・神秘的な情景を演出します。

◆霊犬早太郎伝説

約七百年前、光前寺に「早太郎」というとても強い山犬がいました。その頃、現在の静岡県磐田市の見付天神社では毎年祭りに娘を人身御供として供える悲しい習慣がありました。娘をさらう怪物の老ヒビが早太郎を恐れていると知り、光前寺の住職は早太郎を向かわせ、見事その老ヒビを退治したという伝説が残っています。天神社からは書与した大般若経が奉納されたそうです。



霊犬早太郎像

◆アクセス

千畳敷カール

JR飯田線 駒ヶ根駅下車

バス・ロープウェイ 六〇分

光前寺

JR飯田線 駒ヶ根駅下車

バス 一五分